演習ガイダンス(2011年度)

2011年５月10日(火)17:00～17:50
赤門総合研究棟７番演習室
小野塚　知　二

はじめに

演習ガイダンスがわたしの海外出張の日程にぶつかってしまったため[*1]、ガイダンスはわたしの用意した資料(この文書)をもとに、４年生の諸君に説明していただくことにします。質問は何でも出してください。４年生の諸君に答えられることはその場で答えていただき、それ以外は小野塚宛メイル(onozukat@e. u-tokyo. ac. jp)でご質問ください。出張中もメイルの読み書きはできる予定ですので、できる限りご返事差し上げるようにします。

今年度のテーマ「失敗の合理的背景」について

これは、東大ＥＭＰでわたしが第１期から担当している、経済史に関する一連の講義全体を括るテーマとして2008年に始めたものです。ある程度熟成してきたので、その成果の一部を学部演習にも還元することにしました。

経済史学の知見と方法を用いて、失敗の合理的な背景について多面的に考察します。非合理的な選択が失敗を招き、合理的な意思決定が成功をもたらすというのはわかりやすい話なのですが、困りものは、合理的にふるまいながら着実に失敗に向けて突き進むことです。なぜそうしたことが起きるのか、それは回避できるのか、過去の大きな失敗事例をいくつか取り上げて精査しながら検討します。

このテーマでは、「失敗／成功」や「合理的／非合理的」といった概念が非常に重要で、それらが正確に定義されないと、科学的ではない床屋政談のような話に陥ってしまう危険性がありますので、まず、それらの概念を吟味するところから始めます。その後は、いくつかの具体的な事例に即して、失敗の合理的背景を考えることにしますが、むろん、非合理的な意思決定に起因する失敗や、目的合理的ではないが価値合理的な意思決定･手段選択が何をもたらすかについても、併せて検討することになるでしょう。

参加を希望する諸君は、大きな失敗の実例をいくつか見つけて、それに関する先行研究を調べてみるといいでしょう[*2]。

なお、「失敗の合理的背景」というテーマについて若干は、以下のインタビューでも述

---

*1　５月６日にスイスのベルン大学(歴史学研究所，Historisches Institut)で"Rational Foundations of Historical Failure"について、また12日にドイツのハイデルベルク大学(カール･ヤスパース多文化先端研究所，Karl Jaspers Zentrum für Transkulturelle Forschung)で"Internationality and simultaneity of popular music: socialism, commercialism, and more?"について講演をしてきます。これは２月には決まっていた日程で、その後、震災の影響で経済学部の夏学期開始時期が遅れ、演習ガイダンスも当初の４月初旬から５月にずれたため、日程が重なってしまいました。

*2　たとえば、今回の原発事故がきわめて大きな失敗であることは間違いありませんが、まだ完了した事態ではなく、事故調査は全然なされていません。一方には危険や責任を過度に低く見積もる論調が、他方にはその逆の論調があり、それらの中間に、いくつもの仮定をおいたうえで科学的な議論をしようとする試みもすでになされ始めてはいますが、学部演習の研究テーマにできるのは早くとも数年後でしょう。

べていますので参考にしてください。いずれもわたしのＨＰ[*3]にリンクしてあります。
「私達は市場をまだ飼い馴らせていない　―経済史から、いまの市場を考えてみる―」（日経ＢＰオンライン版、2010年1月22日）[*4]
「経済史から考える市場：我々はまだ市場を飼い馴らせていない」（日経ビジネス別冊『決定版 新しい経済の教科書』、日経ＢＰ社、2010年３月24日）[*5]

ゼミと卒論について

せっかく進学しても、講義に出ているだけでは経済学部で自分が何を学んだのかは、卒業して半年もしないうちにほとんど忘れてしまうでしょう。ゼミで討論し、ご自分でテーマを決めて研究し、卒業論文に書いたことは、自分の財産としてあとまで残ります。卒業後に勉強の効果が残るかどうかという点だけでなく、就職活動の際にも自分でテーマを決めて研究しているということが非常に高く評価された例を最近いくつも耳にしています。経済学部や法学部のように多人数講義が主体の教育を行っているところでは、ゼミで個人研究を進め、卒論を書かなかったら、大学で学んだ証しを残すのは非常に難しいのです。

ぜひ、おもしろい卒論を執筆することを今後２年間の目標の一つに設定してください。そのために必要な助言と指導は必ずいたします。自力で何かを調べ、その成果を論理的に表現して、口頭で、また文章で発表するという技法は学生時代に身に付けておけば、どの進路を選んでも非常に役に立ちます。

ゼミについてのわたしの考えは、以下のインタビューで詳細に述べましたので、参考にしてください。
「新しい大学選び」第３回（洋々･大学別キャンパスライフ、2009年３月）[*6]

個人研究のテーマ選定について

個人研究のテーマは、今年度の演習のテーマに縛られる必要はありません。ご自分の関心のある、研究してみたいテーマを選んでください。ただ、テーマによって、研究のしやすさ／難しさが違います。卒論提出までの20ヶ月ほどで、成果が出せないと困りますから、どんなテーマでも研究できるというわけではありません。テーマを選ぶ際は、まず、関心のあることがらをいくつか、テーマの候補として挙げて、わたしにご相談ください。６月から７月のうちに、とりあえずのテーマを決めてください。その最初の研究成果を秋の合宿で発表してもらいます。

これまでの卒論のテーマ等については４年生の諸君にうかがってください。

---

*3　http://www. onozukat. e. u-tokyo. ac. jp/index. html

*4　http://business. nikkeibp. co. jp/article/tech/20100120/212329/

*5　これは出版物ですが、PDF を以下に掲載してあります。http://www. onozukat. e. u-tokyo. ac. jp/nikkeibp. pdf

*6　http://you2. jp/ao/course-03. htm